

【福島県合同輸血療法委員会】

輸血に関するアンケート調査集計結果（2022年度）【2024年6月27日時点】

*参考：【 】内は2021年4月～2022年3月の調査結果

病院版

1 調査対象施設等

- (1) 調査対象施設：県内の病院89施設 【92施設】
- (2) 調査対象期間：2022年4月から2023年3月まで
- (3) 調査方法：アンケートへの依頼文書を郵送で送付し、福島県薬務課のホームページよりファイル(Excel形式)でダウンロードし、記入したファイルをメールに添付した形で回収した。対応が困難な場合は、FAX等で回収した。
- (4) 回収率：87.6%（78病院から回答） 【91.3%（84病院から回答）】

2 集計結果の概要（項目別）

◎集計結果の報告書を作成するにあたり、病院名等を公開して良いか 【46病院（54.8%）】

可：45病院（57.7%）

I 輸血管理料取得状況について 【52病院（61.9%）】

49病院（62.8%）〔管理料Ⅰ：10病院、管理料Ⅱ：39病院〕

II I & A取得状況について 【5病院（6.0%）】

取得済：5病院（6.4%）

III 輸血療法委員会等について

(1) 輸血療法委員会等の設置数 【71病院（84.5%）】

67病院（85.9%）

(2) 輸血療法委員会を設置しない理由（複数回答あり）

10病院

（指導医がない：4、他の委員会で協議：4、使用がほとんどない：4、その他：0）

(3) 輸血療法委員長の職種

医師（専門科目：外科：28（心臓血管、脳神経、整形等を含む）、内科：25（消化器、循環器、腎臓、血液等を含む）、麻酔科：3、泌尿器科2、小児科2、耳鼻咽喉科（耳鼻科を含む）2、その他3、未回答：2）

(4) 輸血療法委員会の開催回数（回/年）

6回/年：51、12回/年：6、1回/年：2、2回/年：3、3回/年：1、4回/年：1、7回/年：1、1～2回/年：1、随時：1

(5) -1 認定臨床輸血看護師、アフェレーシスナース、自己血輸血看護師、認定輸血検査技師人数（合計）

認定・臨床輸血看護師：68、認定・アフェレーシスナース：3、認定・自己血輸血看護師：11
認定・輸血検査技師：27、細胞治療認定管理師：13

(5) -2 (5) -1のうち輸血療法委員会参加人数（医療施設数/輸血療法委員会有67施設）

認定臨床輸血看護師：34（21/67） 認定・アフェレーシスナース：2（1/67）
認定・自己血輸血看護師：5（3/67） 認定輸血検査技師：18（13/67）

(6) 輸血療法委員会の年間平均出席率

0～20%：1、21～40%：0、41～60%：14、61～80%：16、81～99%：30、100%：6

- (7) 血液センター職員のオブザーバー受け入れ状況
 毎回：10、一部：1、場合による：6、なし：50

IV 指針等について

- (1) 輸血部門の設置数等（複数回答あり）

輸血部門：54病院（69.2%）【60病院（71.4%）】

}	検査部	60件
	輸血部	4件
	薬剤部	5件
	その他	1件

血液製剤保管場所（複数回答あり）

}	検査部	66件
	薬剤部	11件
	輸血部	4件
	その他	4件

- (2) 自記温度計、警報装置の設置数等（複数回答あり）

自記温度計：71病院（91.0%）【75病院（89.3%）】

}	記録の頻度	毎日	73件
		年に1回	0件
		月に1回	0件
		週に1回	0件
		その他	3件

警報装置：72病院（92.3%）【77病院（91.7%）】

冷蔵庫・冷凍庫の保守点検の頻度

}	毎日	43件、	年に1回	12件、	月に1回	13件、
	週に1回	1件、	その他	8件		

- (3) 他の管理項目等

1) 運搬容器の設置：62病院（79.5%）【64病院（76.2%）】

2) 輸血用血液製剤と血漿分画製剤の管理の一元化：24病院（30.8%）【23病院（27.4%）】

3) 管理記録簿等：78病院（100.0%）【84病院（100.0%）】

内訳（複数回答有）：コンピュータ管理：27、手書き伝票：24、両方：27、その他：0

- (4) 輸血前の感染症検査の実施

全例：33病院、一部のみ：30病院、行っていない：14病院

1) 輸血前の感染症検査項目：

HBV	58件
HCV	60件
HIV	29件
HEV	1件

- (5) 輸血前の感染症検査用検体の保管等

全例：63病院（80.8%）、一部：2病院（2.6%）、なし：10病院（12.8%）、未回答：3病院（3.8%）

(6) 輸血後の感染症検査の実施

全例：12病院、医師の判断による：47病院、行っていない：18病院、未回答：1病院

(7) 遡及調査ガイドラインで求められる検査項目の認知（複数回答あり）

HBV：72病院（92.3%）、HCV：72病院（92.3%）、HIV：69病院（88.5%）、
HEV：27病院（34.6%）、知らない：5病院（6.4%）

(8) 大量輸血プロトコル（MTP）の実施

実施している：3病院、実施予定：2病院、検討中：2病院、実施していない：71病院

V 輸血検査および輸血実施について

(1) 患者血液型検査の二重チェック：70病院（89.7%） 【72病院（85.7%）】

(2) 不規則抗体スクリーニング

1) 輸血前不規則抗体スクリーニング：75病院（96.2%） 【78病院（92.9%）】

2) 間接抗グロブリン試験を含む検査法：76病院（97.4%） 【78病院（92.9%）】

3) 陽性となった場合の対応：

{	自施設	30病院、民間の検査センター	29病院、
	血液センター	11病院、自施設・血液センター	5病院、
	自施設・民間の検査センター	1病院、	
	民間の検査センター・血液センター	1病院、未回答	1病院

(3) 交差適合試験

1) 輸血前交差適合試験：77病院（98.7%） 【84病院（100.0%）】

2) 輸血に先立つ3日以内の検体を用いて実施：78病院（100.0%） 【83病院（98.8%）】

3) 間接抗グロブリン試験を含む検査法：77病院（98.7%） 【80病院（95.2%）】

4) コンピュータクロスマッチの実施：4病院（5.1%） 【5病院（6.0%）】

5) 陽性となった場合の対応：

{	自施設	29病院、民間の検査センター	21病院、
	血液センター	20病院、自施設・血液センター	6病院、
	民間の検査センター・血液センター	1病院、	
	自施設・民間の検査センター	1病院	

6) T&S（タイプアンドスクリーン）の実施：15病院（19.2%） 【15病院（17.9%）】

(4) 説明と同意（インフォームド・コンセント）について（複数回答あり）

1) インフォームド・コンセントを担当する主な職種：

{	医師	72病院
	看護師	4病院
	その他	2病院
	未回答	1病院

2) 頻回輸血における同意書の取得頻度：

{	月1回	24病院、2～3か月に1回	13病院、	
	3か月以上	6病院、週1回	5病院、取らない	4病院
	その他	25件、未回答	2病院	

(5) 患者認証方法

- 1) ナースステーションにおいて複数名で確認している：78病院(100.0%)【84病院(100.0%)】
- 2) ベッドサイドで患者本人を確認している：78病院(100.0%)【84病院(100.0%)】
- 3) 電子照合システム導入：40病院(51.3%)【40病院(47.6%)】

(6) 経過観察

- 1) 輸血開始後バイタルチェック：

開始時・5分・15分・終了後	66病院(84.6%)
開始時・5分・15分	2病院(2.6%)
開始時・15分・終了後	2病院(2.6%)
5分・15分・終了後	1病院(1.3%)
5分・15分	3病院(3.8%)
5分	1病院(1.3%)
15分	2病院(2.6%)
未回答	1病院(1.3%)

- 2) バイタルチェックの項目：

体温・血圧・脈拍・酸素飽和度	60病院(76.9%)
体温・血圧・脈拍	14病院(17.9%)
血圧・脈拍	2病院(2.6%)
血圧	1病院(1.3%)
未回答	1病院(1.3%)

- 3) 輸血終了後の継続的な患者観察時間：

30分～1時間	33病院(42.3%)
1時間～2時間	17病院(21.8%)
2時間～3時間	10病院(12.8%)
3時間以上	12病院(15.4%)
その他	5病院(6.4%)
未回答	1病院(1.3%)

- 4) 使用済み製剤バッグの保管期間：

保管していない	26病院(33.3%)
輸血翌日	5病院(6.4%)
2～数日間	11病院(14.1%)
1週間以上	34病院(43.6%)
2～数日間・その他	1病院(1.3%)
未回答	1病院(1.3%)

VI 輸血用血液製剤使用状況について

血液製剤使用単位数合計226,921単位

- (1) 赤血球製剤の使用量は96,119単位で、輸血用血液製剤全体に占める割合は、42.4%である。
- (2) 血小板製剤の使用量は107,765単位で、輸血用血液製剤全体に占める割合は、47.5%である。
- (3) 血しょう製剤の使用量は23,037単位で、輸血用血液製剤全体に占める割合は10.2%である。

VII 輸血用血液製剤廃棄状況について

血液製剤廃棄単位数合計1,954単位 【2,002単位】

血液製剤の廃棄率は0.9%である。 【0.9%】

- (1) 赤血球製剤の廃棄量は1,240単位。(廃棄率1.3%) 【1,372単位】
- (2) 血小板製剤の廃棄量は265単位。(廃棄率0.2%) 【220単位】
- (3) 血しょう製剤の廃棄量は449単位。(廃棄率1.9%) 【410単位】

○輸血用血液製剤の在庫状況

輸血用血液製剤在庫有 17病院 【16病院】

Ⅷ 輸血患者および輸血使用状況について

(1) 年代別及び男女別輸血状況について

輸血患者総数 20,520人

90歳以上	2,164人 (10.5%)
80-89歳	5,309人 (25.9%)
70-79歳	5,848人 (28.5%) (うち、70歳以上年代詳細不明：225人)
60-69歳	3,502人 (17.1%)
50-59歳	1,156人 (5.6%)
40-49歳	705人 (3.4%)
30-39歳	365人 (1.8%)
20-29歳	191人 (0.9%)
10-19歳	76人 (0.4%)
5-9歳	31人 (0.2%)
0-4歳	155人 (0.8%)
年代不明	1,018人 (5.0%)
男性	9,803人 (47.8%)
女性	10,717人 (52.2%)

(2) 診療科別輸血状況 (回答医療施設数：78)

※うち8施設が、診療科別輸血患者数未記入

内科全体数	8,628人
内科：	1,233人
消化器内科：	1,960人
循環器内科：	883人
呼吸器内科：	117人
血液内科：	3,845人
その他内科：	590人

外科全体数	6,364人
外科：	1,650人
消化器外科：	429人
呼吸器外科：	176人
心臓血管外科：	762人
形成外科：	95人
整形外科：	2,560人
脳神経外科：	506人
その他外科：	186人

その他診療科全体数	2,863人
小児科：	231人
産婦人科：	583人
泌尿器科：	654人
麻酔・集中治療科：	1,288人
その他：	107人

IX 自己血輸血について

自己血輸血実施病院：22病院（28.2%） 【24病院（28.6%）】

○貯血式自己血輸血（液状保存）

実施症例数（同種血併用例）：1,209例（24例） 【1,112例（27例）】
採血量（貯血量）：2,620単位 【2,569単位】
使用量（輸血量）：2,273単位 【2,209単位】

○貯血式自己血輸血（凍結保存）

実施症例数（同種血併用例）：0例（0例） 【135例（3例）】
採血量（貯血量）：0単位 【154単位】
使用量（輸血量）：0単位 【153単位】

○回収式自己血輸血

使用量の管理部門での把握：
 { はい 6病院
 { いいえ 20病院
 { 未回答 52病院
実施症例数（同種血併用例）：425例（199例） 【268例（213例）】
使用量（輸血量）：433,914mL 【195,931mL】

○希釈式自己血輸血

使用量の管理部門での把握
 { はい 7病院
 { いいえ 15病院
 { 未回答 56病院
実施症例数（同種血併用例）：10例（0例） 【4例（0例）】
採血量（貯血量）：36単位 【14単位】
使用量（輸血量）：36単位 【14単位】

X 血漿分画製剤使用状況について

アルブミン製剤合計：276,973.5g 【292,957.70g】
フィブリノゲン製剤合計：1,285.0g 【1,032.04g】

XI 外来輸血および在宅輸血について

(1) 外来輸血または在宅輸血実施
 { 外来輸血 43病院
 { 在宅輸血 0病院
 { どちらも実施なし 35病院

(2) 外来輸血後の患者観察
 { 医療関係者 35病院
 { 医療関係者・患者家族 5病院
 { 患者家族 1病院
 { 患者家族・その他 1病院
 { 未回答 36病院

(3) 外来輸血または在宅輸血を実施している患者の主な診療科
 { 血液内科 19件
 { 消化器内科 16件
 { 循環器内科 10件
 { その他 25件

- (4) 疾患名・人数
- | | |
|-------|----------------|
| 血液疾患 | : 25件 (2,982人) |
| 腎疾患 | : 16件 (295人) |
| 悪性腫瘍 | : 17件 (444人) |
| 消化管出血 | : 17件 (378人) |
| その他 | : 19件 (356人) |
- (5) 使用されている製剤の種類
- | | |
|--------|------------|
| 赤血球製剤 | : 11,052単位 |
| 凍結血漿製剤 | : 825単位 |
| 血小板製剤 | : 7,255単位 |
- (6) 実施中または実施後の有害事象発生：9病院
- 1)内訳：発熱 4件、アレルギー症状 8件、血圧低下 2件、呼吸困難 1件、その他 1件
- 2)発生時点：外来輸血
- | | |
|--------|----|
| 院内で実施中 | 9件 |
| 院内で休憩中 | 0件 |
| 帰宅中 | 0件 |
| 帰宅後 | 0件 |
- (7) 外来輸血に対応した有害事象発生時のマニュアル：27病院 (34.6%) 【23病院 (27.4%)】
- (8) 外来輸血実施後の院内での休憩時間
- | | | |
|------------|------|--------|
| 30分未満 | 22病院 | 【21病院】 |
| 30分以上1時間未満 | 17病院 | 【15病院】 |
| 1時間以上2時間未満 | 6病院 | 【8病院】 |
| 2時間以上 | 0病院 | 【0病院】 |
- ※前回の本項目における回答は44施設であった。
- (9) 外来輸血が必要とされる患者の紹介先が予め決まっている：16病院 (20.5%) 【13病院 (15.5%)】
- (10) 輸血のみを診療目的とする患者の受入：23病院 (29.5%) 【19病院 (22.6%)】

XII 製剤別購入量・廃棄量について

	購入量 (単位)	廃棄量 (単位)	廃棄率 (%)
赤血球製剤	97,359	1,240	1.3
血小板製剤	108,030	265	0.2
血しょう製剤	23,486	449	1.9